

「東京都国民健康保険ハンドブック」についてのお知らせ

「東京都国民健康保険ハンドブック(令和8年度版)」を発行します

本会では、国民健康保険事業に携わる実務担当者の手引書として「東京都国民健康保険ハンドブック」を発行しています。

「東京都国民健康保険ハンドブック」の改訂にあたっては、特別区・市町村・国保組合を代表する9名の委員及びオブザーバーである東京都に1年間ご協力をいただきました。

各保険者等への配布及び本会ホームページへの掲載は、5月中旬を予定しております。日々の業務の一助として、ぜひご活用ください。

*** 配布先は、有償分を含め保険者及び関係機関に限ります。**

NEWS

国民健康保険制度を巡る 諸課題について

国保講演会

1月7日 本会会議室



厚生労働省保険局
国民健康保険課長

唐木 啓介 氏

厚生労働省の唐木国民健康保険課長による標記講演会には、国民健康保険運営協議会会長や区市町村の担当課長、国保組合の事務局長ら107名が出席した（Web参加者含む）。

唐木課長から、国保を取り巻く状況や、今後の取組強化の方向性等についてご講演いただいた。

国保制度を取り巻く状況として、平成30年度の都道府県化をはじめとした国保改革の後、被保険者数の大幅な減少、高齢化の進行や被用者保険の適用拡大による低所得化など、加入者構成の変化に対応した法改正を進めてきた。今後は、財政運営の安定化を図りつつ保険料率水準統一や医療費適正化等の取組みを一層進めていく必要があるとし、「財政運営の都道府県単位化」の趣旨のさらなる深化を図っていくと述べた。

国保制度の取組強化の方向性として、未就学児に係る均等割保険料の軽減措置を高校生年代まで拡充し、子育て世帯の保険料負担軽減を図ること、持続的な国保運営のための取組強化として、国保運営方針の中間見直し年度である令和8年度に向けて、保険料水準統一について積極的な議論を進め、加速化すると述べた。

また、地方公共団体の人材不足が深刻化する見通しを受け、区市町村の事務負担軽減、運用の見直しに向け、国保連合会を活用した自治体支援のあり方を検討するとした。

普通調整交付金のあり方について、医療費適正化のインセンティブが働かず、配分の見直しを求める声もあり、保険者努力支援制度のアウトカム指標において、よりインセンティブが働くようメリハリを強化すると述べた。

国保組合に対する国庫補助については、財政力や所得水準に応じて補助率を見直し、そのうえでよりきめ細やかな支援を実現するため、財政支援のあり方について検討を進めると説明した。

さらに、高額療養費制度の見直しやOTC類似薬の保険給付等についても、検討状況や決定事項等について具体的な説明があり、長期療養者や低所得者等へ配慮しつつ、国民の理解を求め、検討、周知を行っていくと述べた。

その他、医療保険による出産の支援強化や医療保険制度における金融所得の勘案、外国人被保険者への対応など、現在検討を進めている施策について最新の情報を交え説明した。

出席者からは「国保の情勢や今後の課題が再確認できた」「令和8年度予算案の概要や高額療養費の見通しなど、最新の情報を聞くことができ大変参考になった」「国保制度を取り巻く諸課題の解決に向けて、今後の国保制度設計にも注目していきたい」などの感想が寄せられた。

アイフレイル

～目の健康寿命をのばそう～

令和7年度 東京都在宅保健師の会 講演会
令和7年度 保健師講習会

3月16日(月) AP市ヶ谷



講師

杏林大学 医学部 眼科学
教授 医学博士

山田 昌和 氏

健康づくりを支援し保健活動に役立てることを目的に講演会を開催し、東京都在宅保健師の会の会員15名と保険者の保健師ら26名が参加した。

講演会では、アイフレイルの概念や、目の機能低下が、転倒や社会参加の減少を招くことが示され、日常生活や健康寿命に与える影響などについて、眼科検診や眼底検査の重要性を交え詳しく解説いただいた。

加齢による目の変化や、緑内障や糖尿病網膜症、加齢黄斑変性などの疾患は自覚症状が乏しく、早期発見が重要であり、自己チェックリストの活用や認知度向上の取り組みに加え、定期的な眼科検診の受診促進が求められると述べた。

受講者からは、「フレイルは身体的な面から捉えてしまいがちだが、目からもフレイルになること、身体的・精神的にも多くの影響を及ぼすことを学んだ」「目が見えない事は生活の質の低下につながるので、検査の必要性を説明していきたい」「眼の不調を感じているが受診しない人が多く、眼の健康について啓発していく事が大切だと思った」といった感想が寄せられた。

第28回 東京都在宅保健師の会 総会

3月16日(月) AP市ヶ谷



主催者挨拶

東京都在宅保健師の会
会長

石山 道子 氏



来賓挨拶

東京都多摩小平保健所
地域保健推進担当課長

草深 明子 氏



東京都市保健師事務連絡会
会長
(三鷹市健康福祉部健康推進課)

新藤 真弓 氏

第28回東京都在宅保健師の会総会が開催され、会員14名が参集した。

総会では令和8年度の事業計画等の議決事項について審議がなされ、全て認定された。

令和8年度役員については、推薦により会長及び副会長2名、幹事4名の7名が再選され、新たに幹事1名が追加で選出された。

来賓として、草深明子氏（東京都多摩小平保健所地域保健推進担当課長）、新藤真弓氏（東京都市保健師事務連絡会会長）にご出席いただいた。